

『リハビリテーションに関するアンケート調査の集計結果』

調査時期：平成21年7月

県政モニター：197名

回答数：166名(84.3%)

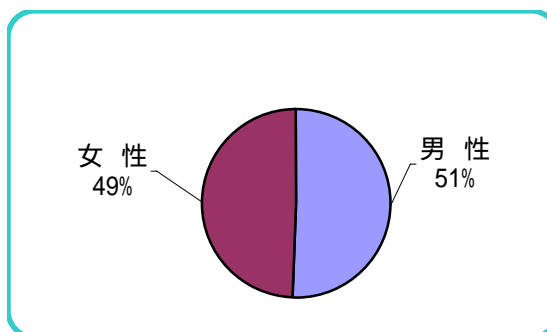
担当課：リハビリテーションセンター

調査目的： 県立リハビリテーションセンターでは、リハビリテーションセンターの活動紹介やリハビリテーションを広くみなさまに知っていただくことを目的とした情報誌「和み」を年4回発行しております。

今年度からはより一層、一般の方を意識し、県民とリハビリテーションをつなぐ情報誌を目指していきたいと思っています。そこで、今後の紙面作りの参考にするために、県民の皆さまのリハビリテーションの認識を調査するためアンケートを実施いたしました。

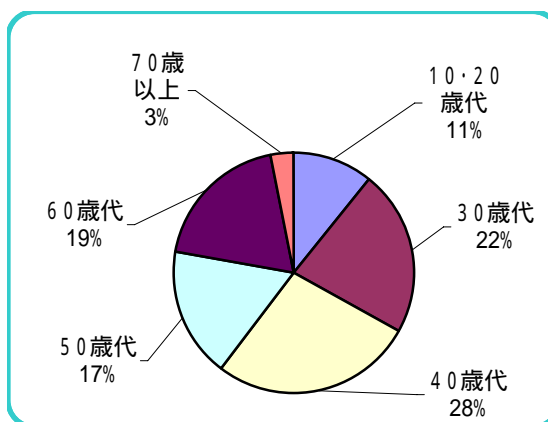
問1 性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	84	51
女性	82	49
合計	166	100



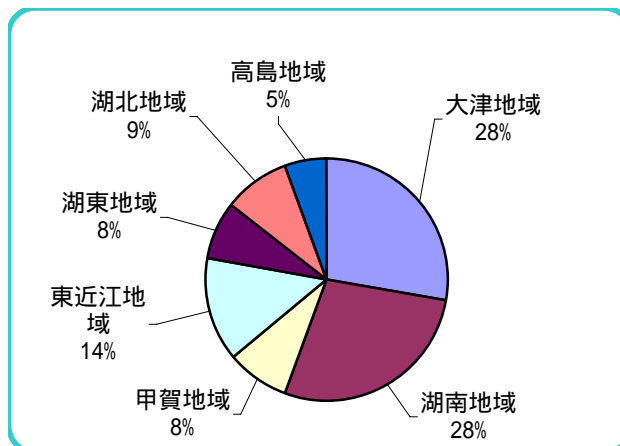
問2 年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	18	11
30歳代	37	22
40歳代	45	28
50歳代	29	17
60歳代	32	19
70歳以上	5	3
合計	166	100



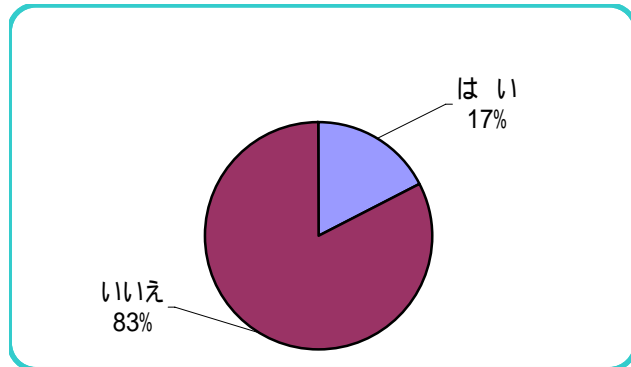
問3 居住地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	46	28
湖南地域	46	28
甲賀地域	14	8
東近江地域	23	14
湖東地域	13	8
湖北地域	15	9
高島地域	9	5
合計	166	100



問4 あなたは医療・福祉に関わるお仕事をされていますか。
もしくは過去にされていたことがありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
はい	29	17
いいえ	137	83
合計	166	100



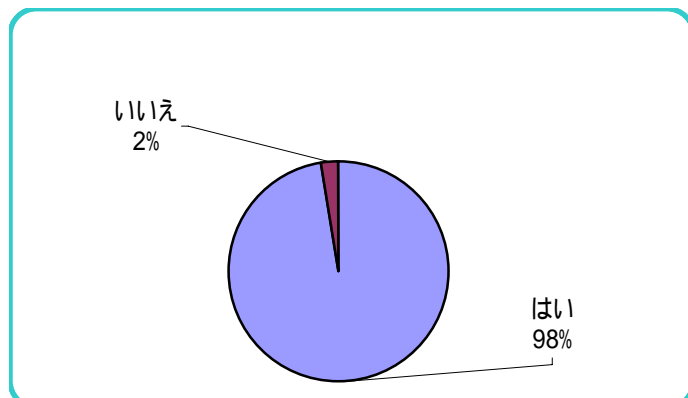
問5 問4で「はい」と回答された方にお聞きします。

医療、福祉関係の資格をお持ちの場合、差し支えなければ、どのような資格が教えてください。

- ・医療事務
- ・介護福祉士
- ・介護支援専門員
- ・養護教諭
- ・ヘルパー
- ・臨床検査技師
- ・保母資格
- ・保育士
- ・医学博士
- ・臨床工学技士
- ・社会福祉士
- ・保健師・看護師
- ・医科大学教官
- ・歯科衛生士

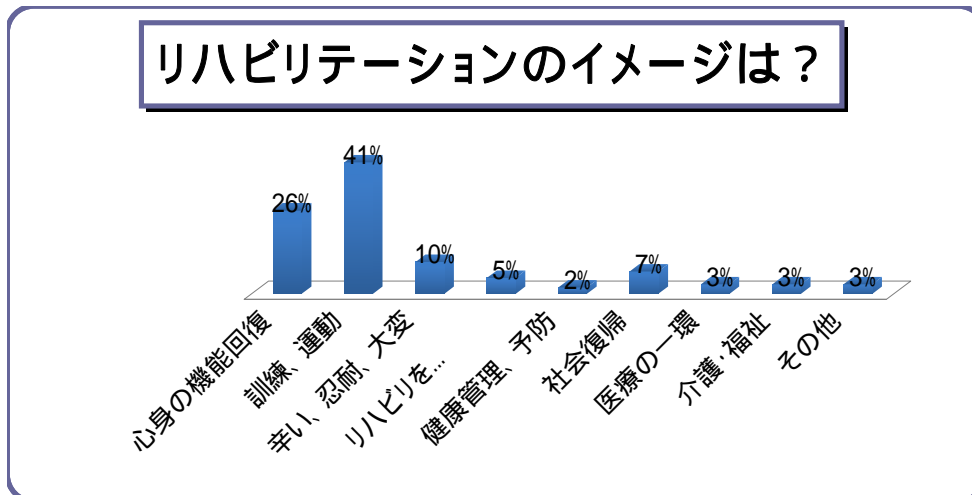
問6 あなたは「リハビリテーション」という言葉をご存じですか。

項目	人数(人)	割合(%)
はい	162	98
いいえ	4	2
合計	166	100



問7 問6で「はい」と回答された方にお聞きます。

リハビリテーションについて、あなたがお持ちのイメージを一言で教えてください。



(コメント一部抜粋)

< 心身の機能回復 >

- ・事故や病気などで日常生活に支障が出るようになった人が取り組むもの。
- ・身体の支障箇所(手術も含む)を、訓練により出来るだけ元に戻るようにする事。
- ・負傷した機能を回復させる為に、長期間の時間と専門家の指導で訓練して今までの機能を回復する事。
- ・体の不自由な部分を鍛錬して復帰させる。
- ・自己の病気、障害から一定の体の機能回復を自らが行う。

< 訓練・運動 >

- ・なんらかのケガ、疾病からの復帰のためのトレーニング。
- ・身体に麻痺などの症状や術後の機能回復のための運動。
- ・病気、事故等で喪われた又は衰えた機能を回復するためのトレーニング。
- ・身体障害者が病院や福祉施設で歩行訓練などをする光景が浮かびます。

< 辛い・忍耐・大変... >

- ・大変だけれど、頑張るって行くもの。
- ・本人の努力と周囲の支えがあって行えるもの。
- ・長い地道な努力と周囲の理解と協力が必要。
- ・当事者もサポートする側も忍耐力が必要なもの。

< 社会復帰 >

- ・病気やけがで重度の負傷を負った方の社会復帰をめざすもの。
- ・病気、傷害のある体を社会活動を行える体に回復させること。

< リハビリを行う場所 >

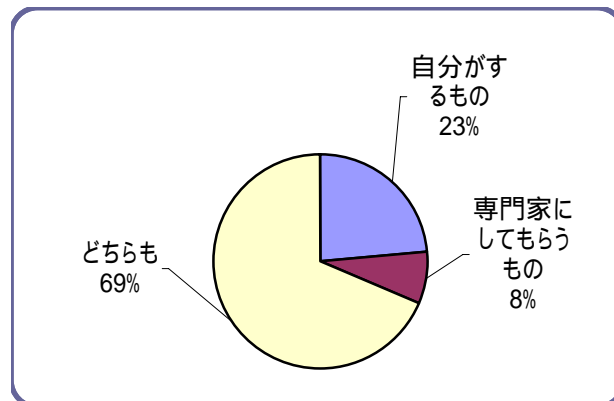
- ・病気や怪我で機能しなくなった身体の機能回復トレーニングを行う施設。
- ・日常生活が困難で、回復が見込まれる方が社会復帰するために必要な施設。

< それ以外のコメント >

- ・寝たきりにならない為の予防。
- ・医療の一環。
- ・他人事ではなく、いずれ我々にも降りかかってくる問題だと思います。

問8 リハビリテーションは誰がするものだと思いますか。

項目	人数(人)	割合(%)
自分がするもの	39	23
専門家にしてもらいもの	13	8
どちらも	114	69
計	166	100



問9 リハビリテーションについてのご意見等がありましたら、下記にお書きください。(一部抜粋)

- ・受傷により期間が定められているため、回復せずとも受診できなくなるケースを聞きます。治癒状況等により臨機応変に対応していただきたいものです。
- ・傷病の具合によっては、専門家の指導に基づきリハビリが必要とされます。ただ、専門家が大きな病院に集中している為、地方ではなかなかうまく活用されていなかったりします。
- ・リハビリの専門家の指導によりどのように訓練を行えば、どの部署に効果があり回復してゆくかを行う本人も理解することにより、より効果的に機能回復ができると思います。決して、してもらいものではなく、自分自身の回復への強固な意思と連動して初めて効果があると思います。
- ・効果的なリハビリを実行するためには、専門知識を持った専門の指導員や療育師の配備が必要ですが、ごく簡単なもので家庭でも手軽に出来るものならば、親切な指導書があれば良いとも思います。重症になれば、リハビリどころではなくなるので、少しでも体調に不具合が出れば、早速取り組めるような環境にあるのが望ましいと思います。そんなものがあれば、私もほしいなあ。
- ・誰もが気軽に低料金で利用できる公共のリハビリ施設の設置を望む。
- ・昨年4月に、足の手術をして、約1ヶ月入院をしました。そのときに、入院・リハビリの総日数が最近(2年から3年前に)定められたと聞いている。無為な退院が生じる事が懸念される。そして、退院後のリハビリの期間も特に理由がない時は、リハビリ開始から180日と定められている。回復する場合はいいと思うが回復が思わしくないときは、医師の立場で期間を延長する様にしては如何ですか。本人では、申請がし辛いと思います。
- ・友人達や施設に寄せていただく機会に拝見しておりますと方法が統一されておらず施設の内容(器具等)もさまざまのように見えます。一人一人症状も違い、個々のケースに合わせて行うことが要求されることは理解しますがなんとなく違和感を憶えます。リハビリに対する県民の理解を深め、施設のみで行うのではなく家庭でも地域の中にあってもみんなで助け合い、理解しあって出来るようになると閉じこもりがちな患者や家族、また医療費の削減にもなるにではないでしょうか。
- ・現在母が膝手術後のリハビリテーションをしている。色々な器具・機械があり、私が30年前にアキレス腱の手術後のリハビリとは雲泥の差。専門の知識がある先生(運動療法士?)が居られ、丁寧に説明指導される。母を見ていて思うのは、高齢者の場合、理解力の不足・機能・回復がなかなか思うようにいかない。このような人々に携わる時、技術だけでなく、双方の信頼とコミュニケーションが技術以上に大切だと感じています。また、しっかりリハビリが出来る病院の情報が欲しい。人の話を聞いていると、病院格差が大きいように思います。

- ・病院や通院または施設での治療より家庭でのリハビリに苦勞が多いように見受けます。家族にとっては時間的・体力的・経済的そして何よりも 精神的な負担がきつ、家族のストレスが蓄積すると聞いています。 とは言え、当人にとっては家族は心の支えであり、家族の暖かい応援が一番の妙薬だと思います。又、当人も家族に甘えることなく、真剣に取り組むことも大切です。
- ・しかしながら、家族だけの対応では限度があります。自治体は更なる施設の充実やヘルパーの増員、実情に合った介護認定の実施。
地域に於いてはリハビリ中の人々を暖かく迎える場所など、ふれあいの機会を多くすれば良いのではないかと思います。
- ・リハビリとは、なんて孤独で、時間(期間も)かかり、なかなかゴールが見えないものなんだろう…って。
- ・現在なかなか継続してリハビリが受けられない状況になっている。 リハビリを受けようとしている人たちが納得がいくまでリハビリが受けられるようにしてほしい。
- ・専門家が一人一人に合ったメニューを考え、続けることをサポートすることが最も大切だと思います。場合によっては精神的サポートの方が重要になることもあるのではないのでしょうか。そうした職業の方が今滋賀県にどれくらいおられるのか、体制が十分なのか、私は存じませんが、よりよいリハビリ環境を整うことを願っています。以前、NHKで「戦うリハビリ」という番組を少し見たことがあります。現在はリハビリも進歩しているのでしょうか。
- ・リハビリテーションに決められた日数があり、それを超えると継続することが難しくなる事が残念です。回復はしないかもしれないけど、寝たきりの人の筋肉拘縮予防など、現状維持にも必要だと思います。
- ・リハビリテーションを長期間しなければならなくなって就業の継続も困難となり、収入が無くなって、生活できなくなったような場合、どのような支援があるのか等が不安です。
- ・今整形外科に通院しています。病院は年配の方が多くとても混んでいますし、私には小さい子供がいるので待ち時間が長いと子供がグズリ、リハビリに通いたくても通えない状況です。

まとめ

今回のアンケート調査によって、「リハビリテーション」という言葉が県民の皆さんに浸透している言葉である事がわかり、またそのイメージについても窺える事ができました。

今後、リハビリテーションセンターでは、県民の皆さんが毎日の生活の中で行える、自分でするリハビリテーションの提案をしていきたいと考えております。

今回、貴重なご意見を数多く寄せていただきました県政モニターの皆さまに深く感謝いたします。

